

みうらトーク&トーク 平成30年度第1回

日時

平成30年7月23日(月)

19時~20時

場所

初声市民センター 講義室

参加者

初声区長会

テーマ

今後の初声町を考えて

初声区長会長あいさつ

三浦市長あいさつ



<意見交換・概要>

市長

区長さん達からお話を頂いた三つの項目、現状の市としての考え方と進め方について話をさせていただきます。

引橋の市民交流拠点とベイシアの進出について、現在の状況等の話をさせていただきたいと思います。県立三崎高校跡地につきましては、市民交流拠点等の公共的機能と民間施設を段階的に整備して、市民の皆さんが交流できるような拠点づくりをしています。昭和30年に市政がスタートし、初声と南と三崎の三つが一つになって三浦市が誕生しましたが、その時の事実関係は正確に伝わっていないのですが、将来的には市の中心あたりに市役所を持つてくるという話もあったように伺っています。三崎高校が閉校になり、その跡地については、元々の市の持ち分を市に無償で返却、残りの部分は市が公共施設を作るのであれば、低廉な価格で売却をするという県との話し合いの下に市のものにしました。全体で5億円ほど、坪単価で2万円位、5千万円ずつ10年の支払いで、今は市のものになり借金はありません。あの土地をいかに活用するか様々な議論がなされましたが、市がすべてを投資するというのは厳しい状況で、民間との連携をしようという事で、プロポーザルという企業から提案をもらって土地を活用する手法を考えました。最初は校舎があった場所とグラウンドがあった場所の全てを一帯で開発できないかと検討しましたが、開発する事業者の手が上がりなかつた為、結果的に旧校舎のあった高台の所をA地区、グラウンドをB地区と区分けして企業を募ったところ2つ声がかかりました。その結果ベイシアさんが市民交流センターと一緒に作り、市が部屋を借りて、土地は30年間の定期借地権で土地代を払ってもらい、差額を市に納めてもらおうと、相殺して年

間500万円位が市の歳入になります。店舗についてはベイシアとの協議で、当初今年の12月位までに完成したいとの意向でしたが、土地の用途が第一種住居地域の為、大型店舗を造る場合、神奈川県建築審査会の同意をもらう必要があり、今年の8月に建築審査会で受け入れられる予定ですので、それから着工として来年の3月には完成させたいとベイシアが言っています。B地区グラウンド側の進入路の工事は市の工事として行う準備がされています。入札業者も決まっているので、7月下旬に着工予定で、交差点入口の改良に取り組みます。交差点の改良をするには、グラウンドの底上げをしたり盛土をしたりしました。B地区全体の進入路として、まだ決定ではないですが、下の地域についても相談をしながら開発することも必要で、公共施設を集約しようという動きになると思います。そういうときにも、きちんとした進入路が必要で、ベイシアの工事と合わせてやっていきます。少しお金がかかりましたが、将来的にも跡地活用するうえでは、必要な投資であろうということで議会にも了解をいただき進むこととなります。

これからA地区店舗ができて、市民交流センターができると人の流れが変わり、引橋地区の変化はまだ見えませんが、混雑を見越した交差点改良に取り組みます。その後B地区の基盤造成をします。費用等については横浜国道事務所との調整で費用の捻出を考えており、最終的に背伸びの計画はしませんが、今後建物を市が単独で造るのは難しいので、民間の事業者との提案をもらって一緒に進めるような仕組みなりを検討していきます。

入江の再開発の件ですが、去年も同じ話をしたかと思われませんが、平成20年頃プロパストは、ホテルなどの開発計画の許認可手続きが完了していました。道路の整備が一部完成していましたが、それ以降工事が進んでいませんでした。リーマンショックがあり不況のあおりを受けストップしてしまったということです。その後、プロパストが単独で計画を進めるのが困難であるということで、平成28年スマートコミュニティに土地を譲渡しました。当該地は市が優良住宅の提供を求めているところで、その実現に向けた動きになりました。国が進める地方創生施策として、首都圏に集中していた人口を地方に拡散させる、日本版CCRC、つまり団塊の世代や最初の仕事をリタイヤして、これから新しい人生を歩まれる方たちに地方へ移住してもらい、地方の活性化を図るもので、三浦市としても首都圏に近く三浦版CCRCで、アクティブシニアの皆さんを三浦市に呼び込むことができないだろうかという計画を合わせて作らせてもらい、スマートコミュニティが新しい事業として検討しています。スマートコミュニティは、千葉県稲毛市で、シニア用のマンション事業が成功していて、三浦を気に入ってもらい土地を取得してもらいました。街づくり条例という建築に関する条例にも合致した建物や街づくりも目指してくれているので、新たに高層の建物を立てるなどの計画は無理をせず、当初3000世帯だったが1500世帯位でまとめていきたいと考えているようです。

宮田の道路工事は、1カ所目が横須賀市境付近の土木工事、2カ所目が和田地区内のボックスカルバートという、箱状の道路の土台になる物を作っています。

1カ所目は今年の8月まで、2カ所目は9月位までと聞いています。神奈川県が実施しています初声小学校の入り口交差点、西側の歩道の整備は終わっており、車線を切り替える整備を実施していますので、今年の12月までに完了したいと県から聞いています。文化財の出土の調査で4年ほど遅れていますが、その調査もほぼ見えてきたようなので、併せて和田に抜ける道と、竹ノ下への道の拡幅も次の計画に持っていきたいと思っています。

この3点について質問、ご意見ありましたらお話しいただけたらと思います。

市民 去年の話で、縦貫道出口は平成30年3月完成予定と言いましたよね？またそれが延びるということですか？

市長 平成31年度中に完成させたいと思っています。

市民 宮田の交差点はいつ完成しますか？

市長 県が進めてくれていて、今年の12月までには終わる予定です。

市民 時間がかかり過ぎではないか。中途半端に機材が置いてあるから邪魔ではないか。事故でもあったら大変ですよ。

市民 三崎高校跡地利用についてベイシアの進捗状況を伺いましたが、当初の工期が7カ月という試算だと、平成31年3月末の開業を目指すなら、県の審査会を8月末に通らなければだめなわけでしょ。通らなければ1カ月、また1カ月と遅れてくる。ベイシアの開業時期はどうでもよいが、大事なのはベイシアから場所を借り、引き渡されてから中が使えるように整備される期間がどのくらいかかるのでしょうか？

市長 よっぽどのことがなければ通らないということはないと思っています。内装関係は市民協働課長が担当しています。

市民協働課長 色々な要因があり簡単には申し上げられませんが、ベイシアが平成30年12月に開業の時は市民交流センターは平成31年3月という予定で組ませていただきましたので、中3カ月位。今回も同様若しくはもう少し時間がかかる可能性があります。年度をまたいだりすると事務も増えたりもしますが、皆さんにお待ちいただく時間を短くしたいと考えています。

市民 ざっくり来年の夏くらいか。

市長 夏までに出来ればよいと考えています。

市民 繰り返しになりますが、宮田の交差点工事に市民が困っています。工事を一生懸命やっているように見えない。もっと早く出来るようにしてほしい。

市長 県の方からは今年の 12 月と言われていますが、前倒しで出来るようには言っておきます。

市民 三戸からじんべえ坂に抜けてくるところのカーブミラーが腐敗していて、土木の方が撤去したが、子供たちの通学路になっていて困っているのを早急に付けてほしい。土木に電話してあるがその後返事がない。

市長 早速確認いたします。

市民 市内に本屋さんが 1 件も無くなってしまったが何とかならないか？

市長 ツタヤは不採算店舗を一斉に閉めていて、正式に問い合わせをしましたが、再構築をする必要があり、その対象になったので、栗田店を利用してほしいとのことでした。本屋の業界自体が今の時代大変みたいで、大手の本屋も苦勞していると聞いています。三浦海岸のハマユウ書房も閉めてしまって、下町にはまだありますが本当に痛いですね。色々ところで同じ意見を伺いますので、何とかしたいとは考えてはいますがなかなか難しい。市の図書館の再構築も考えています。

市民 三崎口の飯森仲田公園の植木の伐採をやっていただいて大変ありがたかった。地区は高齢化してきて草刈り等手が回らなくなってきた。市の方で積極的にやっていただければありがたい。地味な公園だが一部の人には大変有名で、歩け歩けの集合場所になっていて、今まで住民でやっていたが、今回市でやってもらい助かったので、今後もお願いしたい。

市長 わかりました。

市民 投票所について、引橋会館が会場に住民が住んでいるところが三崎口駅付近の為大変です。自治法によりますと、3kmと 3000 人の条件の設定で、どちらも該当していないが、歩いていくのもなかなか大変で、下から上まで上がると 25 分位で行くが投票所としては難しい。市のホームページに注釈があり、道が狭く行き来が出来ない為車で来るなど記載されている。高齢化してきている事から投票所として適当なのかという問題が出ている。ベトナムの話も出ていますが、この投票所から市民交流センターへ投票所を移すのはどうでしょうか。

市長 市民交流センターの活用については、駐車場の課題など、利便性を踏まえて検討するよう、選挙管理委員会に伝えます。

市民 便の悪い投票所は気の毒に思う。行きやすい場所に設置すべきである。

市長 わかりました。全体の見直しも含め選管に伝えます。

市民 農福連携について、国の政策として進められていますし、障害のある方を農業を会社形式にして雇用を促進していこうという内容ですが、横須賀市は先月マネジメントを行う会社と契約を結んだが、三浦からそういった話が聞こえてこないです。

市長 そのお話は三浦市に先に来ており、金田の山森農園と連動していて、行政とやるときに具体的な流れが出来ませんでした。民間企業としてその会社の情報がよく理解できていなく、横須賀市が先に乗りました。三浦市としても進めないわけではありません。

市民 農業先進地の三浦市としては、明確に且つ強力な方針を出さないと乗り遅れてしまいかねない。

市長 農業者のニーズも併せて調節していかなければいけないというのがあって、そこで出遅れた感がありますので、別にその会社を否定しているわけではなく、連携をするのはやぶさかでは無いので検討させて頂きたいと思います。

市民 企業誘致が出来なければ地方税が入ってこない。

市長 人口が減っている要因は構造的な欠陥があり、工場の立地が激減しています。三浦市でも30代40代の皆さんが働く環境を整えなければいけないと思いますが、中々大手の企業誘致が難しく、テレワークなど色々な就労形態がありますので、敏感に反応するようにします。空き家を放置せず賃貸に回せるように出来ないか考えていますので提供してほしいと考えています。お試し居住を行っていますが、ニーズがあっても成立するまでは難しい一方、気に入って来てくれる人もいます。しかし、毎月30人から50人位転出しており、転入もありますが、転出が多いのが実情です。3月には100人以上が転出してしまいました。

市民 転出が多いのは通勤時間がかかるからですか。

市長 企業側が通勤手当の関係で時間や距離で制限をかけたりすることもあると聞いて

いますが、実際に通勤している人も多い。働く世代が勤めるところがないのも要因であり、第一に進めています中々上手くいっておりません。シルバー産業で介護、福祉関係の仕事の求人はありますが、重労働の割には賃金が安い等、賃金環境の改善を市町村は要望しています。

市民 二町谷地区はどうなっているか。

市長 安田造船と基本協定を取り交わしました。漁港法の関係で水産関連以外の事業者がその土地を使用するのが難しく、事業の用途は色々な業者が使えるとなっていますが、根本的な約束があり、国や県と調整する必要があります。漁港区域の活用は緩和していますので、土地を使うための法的な問題等を協議する事業者を特定しました。事業自体の詳細内容はこれから詰めて、法的な問題もクリアして進出できるようになれば、一年半位をかけて事業を進めて行きます。それに合わせて三浦市も国や県と調整いたします。土地は市ですが、漁港区域は県のものなので、一緒に事業計画を進めて行きます。ホテルやコンドミニウムなども計画していますが、規模や使い方はこれから検討していきます。きちんと事業を進めたいので、保証金の2億円を市に納めていただき基本協定に至りました。前回の経験も踏まえて慎重に進めています。

市民 雇用なども生まれるか。

市長 もちろん雇用も生みますし、岸壁側の城ヶ島側区画は水産管理施設として三崎の魚市場を新しくしたり、水産業関連の事業所、工場の誘致することで方針は変えずに進んでいきます。

市民 漁港は漁業関連者でなければ使用できないが、前の久野市長が海業として海に係るレジャーボート、ヨットハーバー等含めて多面的な活動が出来るような発想をし、今は全国的に施設が出来ています。今回の話も水産業界だけでなく他の人たちも使用出来るようなもので上手くいけばと思っています。

市長 本来うらりにヨットは泊めることができませんが、特別に係留施設を使用させてもらっています。あの区域は一時係留だけ認められている場所であり、宮川湾のヨットハーバーも同様です。油壺のヨットハーバーは以前から認められています。それではよろしいですか？何かありましたら、また話を伺えたらと思います。今日はありがとうございました。

※ 公表については了承を得ております。